第３回 茨城県リスキリング推進協議会

１．開催日時：令和８年２月25日(水)14:30～14:50
２．開催場所：茨城県庁行政棟５階庁議室
３．出 席 者：

会長	大井川和彦	茨城県知事
委員	笹島　律夫	一般社団法人茨城県経営者協会 会長
	矢部　英雄(代理)	茨城県中小企業団体中央会 専務理事
	内藤　　学	茨城県商工会議所連合会 会長
	久保田利克	日本労働組合総連合会茨城県連合会 会長
	加藤　光保(代理)	国立大学法人筑波大学 プロボスト
	東海林宏司(代理)	茨城キリスト教大学 学長
	難波　浩美(代理)	一般社団法人茨城県専修学校各種学校連合会 事務局長
オブザーバー	杉山　晴治	経済産業省 関東経済産業局地域経済部長
	佐藤　悦子	厚生労働省 茨城労働局長

４．議　　題：(1)日経リスキリングアワード2025について（別添【資料１】）
　　(2)これまでの事業実績と効果検証、2026年度以降の施策の方向性（別添【資料２】）
５．意見交換

開会挨拶　（大井川知事）

〇人口減少や国際情勢の不確実性、生成AIなどデジタル技術の進展により社会・産業が転換期にある中、本県の持続的発展にはリスキリングを通じた生産性向上と成長分野への円滑な労働移動が不可欠である。

〇2023年１月に協議会を設置し同年10月に政策パッケージを策定、「意識啓発・機運醸成」と「スキル習得支援」を柱に施策を展開しており、シンポジウム開催や先進企業の表彰などの取組が評価され「日経リスキリングアワード2025」公共団体部門最優秀賞を受賞した。

〇本日はこれまでの事業の分析・効果検証と今後の施策の方向性を報告し、率直なご意見をいただきながら、協力のもとで着実に推進していく。

議事　(1) 日経リスキリングアワード2025について

議事　(2) これまでの事業実績と効果検証、2026年度以降の施策の方向性

※県(事務局)から資料を基に説明

意見交換　（委員の主な意見）

〇AIが加速度的に進化しており、実務領域に浸透している中、ホワイトカラーにはAIの回答を判断し組織の意思決定に活用していくにあたり、判断する能力が求められている。

〇製造業や農業が本県の主要産業である中で、現場での高度な熟練技能にAIを取り入れる「現場で働く人のリスキリング」を強化し、デジタル技術をもとに、身体能力や管理能力を拡張させていく取組みも必要。

〇一部の意欲的な企業は、AIの導入で生産性向上や新事業開拓が進む一方、多くの企業では何から手を付けたらいいか分からない状況であり、デジタル技術への対応は二極化している印

象を受ける。

〇中小企業こそデジタルに仕事を任せて人がお金を稼げるような仕組みにしていくべきと考える。行政や教育機関には、座学のセミナー等だけではなく、県でやっているような現場の業務に直結した「使えば仕事が変わる」と実感できる研修の実施をお願いしたい。

〇人口減少やデジタル技術の進展など、企業を取り巻く経営環境の変化は想像以上に早く、企業の生き残りをかけてリスキリングに取り組むことが不可欠。

〇宣言したものの、人材不足や資金不足からそれ以上の取組みが思うように進められないということが現状としてある。リスキリングが企業の成長・発展につながり、優秀な人材から選ばれる会社となることを、会員企業に伝えていきたい。

〇リスキリング講座を受講した方が中心となって県内企業の業務改革が進み、労働生産性を向上させていくプロセスに大学がどう関わっていけるのかしっかり考えて行きたい。

〇本学は、教育機関の社会人リスキリング講座支援プログラムにおいて、受講者規模は小さかったが地域の社会人を受け入れることができた。今後この支援が廃止とのことだが、支援があろうとなかろうと、大学としてリスキリングには積極的に取り組んでいく必要があると強く認識している。

知事まとめ

〇日経リスキリングアワードの受賞や推進宣言企業数などの見かけ上の指標では効果として意味がないのでは。大切なことは、県内の人材の生産性向上が達成されること。

〇施策が「意識啓発・機運醸成」に偏り、「スキル習得支援」が薄くなっているように見える。

〇成果や、個別の事業の廃止・存続については、判断が抽象的であると感じる。ニーズ分析や効果検証、目的の再整理等を行った上で、委員に再度諮った方がよい。